

平成29年 1月31日

関係各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp

HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。
もしかしたら正式な球根情勢報告は、年明け第1回目となるかもしれません。

本年もよろしく願いいたします。

年明け早々、Facebook、特にLine 転送にて、大勢の皆様にご迷惑をおかけしました。
申し訳ございませんでした。お詫びいたします。(しばらくは静かにしています。)

不安定な切花流通情勢の中で、その原因がわからずモヤモヤした気分が続いておりました。
ようやく、現在の市場情勢の原因が見えてきました。
今シーズン/来シーズンに向けて、皆様にお繋ぎすべき話の整理ができました。

「潮目が変わったのか？」

確定ではありませんが大きな変化が起きつつあるように見えます。(消費が増える…花が良く売れる、という風にとらえられると困りますが…)

今回の情勢報告は業務連絡の色彩が強いです。

直接関係のない部分が多々含まれる可能性がございますが、「品目別の世の中の情勢」(球根切花業界のほんの一部分でしかありませんが…)という事で、ご理解ください。

オランダ産アイリス 16年/17年及び17年/18年

2016年に納品された15年産抑制アイリス・16年産促成アイリス切花生産は、おおむね順調。市況についても順調推移しました。

17年/18年切花生産用、16年産抑制球、17年産促成球についても、おおむね受発注作業が終了しています。
微調整作業、納期確定、輸入方法確定作業を残すのみとなっております。

P.O社(メバリッジ社) 抑制球・促成球

BOT社 抑制球・促成球

J.W社 抑制球

主要業社における、球根生産会社、生産履歴別の取り扱い、ロットの絞り込み作業を継続実施してきました。
おおむね、お客様が納得していただける状況が整理されてきたように見えます。

輸入/輸送方法により変化する球根の状態をしっかりと認識して、取り扱い精度を高めていく所存です。よろしく願いいたします。

16年/17年ニュージーランド産チューリップ

日本の球根総輸入量は、ピークから見て20万~30万球輸入減少。ここ近年の入荷量は、横這い。

品種構成もよくなり、出荷期間も11月/12月を中心にして、早すぎる切花出荷量は減少してきました。南半球産の特徴がうまく発揮されるようになりました。良かったと思っています。

16年/17年産オランダ産チューリップ

16年産オランダ産チューリップは、球根品質面で相当心配していました。ここまでの所は良い方に期待を裏切り、ますますの結果となっております。(営利栽培家向け)

チューリップは、球根輸入業社目線で見ると3つのポイントがあります。

①為替環境の影響が主要因と考えますが、ドライセール球根市場が国産球から輸入球へのシフトを続けていた様です。やや行き過ぎた感があるように見えます。

やはり価格のみの判断ではまずいのではないのでしょうか？国産球を大切にしましょう！

②逆に国産球営利栽培家向け球根については、国内で生産している球根の品種更新を進めようという流れが生まれてきている様に見えます。

③昨今の異常気象は、日本だけではなく、ヨーロッパも同様です。

プラスチック栽培、ターボ球、アーリー球等の球根精度、納期維持精度が低下しています。

従って、早い作型を中心に国産球需要が高まります。

年内から年明け早々の切花出荷作型、出荷配色バランスに、国産球根消費量増加してきていることが色濃く反映され始めているように見えます。(切花産地/個々では無く、全国の出荷配色傾向)

品種更新が進んでいるとはいえ、国産球比率が高まれば、自ずと配色に偏りが生じてきます。早い作型から遅い作型まで国産球の果たす役割、輸入球根が果たさなければいけない役割、が見えてきているのではないのでしょうか？

最近では、価格表を作成した後から、チューリップ球根取引が開始されることが常でしたが、17年産は、正式な価格表が作成される前から、受発注作業が開始されております。

個々の皆様に特定の品種/サイズのご紹介をさせていただいております。

状況を鑑み対応くださいますよう、よろしくお願いいたします。

16年/17年産 国産百合球根

今や国産球根については、お客様から先にご注文いただいてから生産する、いわゆる受注生産の色彩が強まっています。(種球を確保する為に。)

従って、16年産については、おおむね販売作業は終了し、残すところの在庫数も少なめとなっております。

16年産フランス産球根について大きく欠品する品種が出てきます。酷暑期作型については、フランス産を上回る実績を上げているのが新潟県産国産球切花だという認識です。

国産球を使用できると思われる作型をお持ちの方については、ぜひ実験的な導入をご検討ください。

よろしくお願いいたします。

17年産につきましても、在庫数に限りがございます。

フランス産球根の生産供給の不安定さも鑑み、ぜひ実験的な導入のご検討いただけないでしょうか？

よろしくお願いいたします。

16年/17年産 南半球産百合球根

既に情勢報告済です。

第1回の導入計画はお済でしょうか？

何卒ご計画いただきますようよろしくお願いいたします。

2月第1週より輸出業社との仕入調整作業を開始いたします。

皆様からは最低でも必要な球数・サイズのご連絡を下さいますようお願い申し上げます。

16年産オランダ産/フランス産 百合球根

(17年産オランダ産/フランス産については、今回レポートいたしません。)

A. H/L. A の欠品受注修正作業がおおむね終了した後、O. H/O. T 系の欠品による所の、受注修正作業を行いつつておりました。ご迷惑をおかけしまして申し訳ありません。

いよいよ1月末となり、フランス産主要品種であるオブラカ・シリア・パテロ・サンバジなど、重要度の極めて高い品種の欠品連絡が入り始めました。

1月最終週から2月第1週にかけて（輸出業社の業務が重なってしまう…17年産南半球産の受注作業を急いでいるもう一つの理由です。）最終調整案内が入ります。

対応下さいますようよろしくお願いいたします。

かなり大きな穴、変更が予定されております。

少なからず在庫を作り、準備も進めております。繰り返しになりますが、くれぐれもよろしくお願いいたします。

なお、現在までの所の当社における情勢は…、

15年産/16年産NL/FR産のみ 対比				
	発注進捗率	受注進捗率	在庫割合	
O. H/O. T	100.7%	98.5%	2.2%	
A. H/L. A	95.7%	93.9%	2.0%	
全体	98.6%	96.6%	2.1%	

となっております。（確保数は今後減少する可能性を含んでいます。）

参考までに…当社の場合、14年産/15年産対比（NL/FR産のみ）では、O. H/O. T系で8.8%減（自然減？）。A. H/L. A系で11%増となっております。（深谷雪害からの回復により。）

一生懸命、代替確保に努めているのですが、十分かどうか…わかりません。可能な限り、早めに情勢をお繋ぎいたします。

何卒宜しくお願い申し上げます。

2016年百合切花流通状況について

年末から年始にかけて、様々な業務が重なり、忙しくさせていただいておりましたが、そんな中でどうしても頭の中心に居座り続けた疑問が…、

「どうして2016年10月中旬～2017年1月まで（今現在まで）約3.5か月間も、百合切花の高価値が続いているのだろうか？」でした。

39協力市場様より下半期（7-12月）の百合切花販売データをいただき、（現在までに36/39市場様より回答いただいております。）ようやく「なるほどね！」という答えがぼんやりと見えてまいりました。

「喉の奥につかえた魚の小骨がとれたくらい、すっきりした気持ちになりました。」

この分析ができないと、今、切花市場で、何が起きているのかがわからない。お客様（百合切花農家）に説明がつかない状態でした。

各市場データは、多くの個人情報という事になります。

基本的には集計値のみで判断しなければならないところですが、今回は少しだけ個別市場データも解析させていただきました。従って、このことはこの情勢報告では触れられません！

あくまでも、大筋だけお伝えします。

①2004年がO. H/O. T系切花流通のピーク。1億2千～3千万本。（あくまでも市場流通本数）

2013年までに約8千万本内外まで減少。（あくまでも市場流通本数）

切花市場動向・経済動向の影響で、減少していたことはわかっている、あまり大きな声では話されていなかった。

②39協力市場様の日本における市場占有率は詳細を知る方法はありません。

球根輸出業社大手9社からの販売状況報告、植物貿易・防疫統計（百合球根/百合切花）、市場協会発表値（60市場。39市場との重複がある。）など、複数の資料統計値にて裏付けを取りながら計算すると、全国の約67～72%くらいのシェア率となる様子。

協会発表値と対比すると、39協力市場のシェア率は95%を超えていきます。

*ちなみに08～12年頃をピークに、39協力市場の市場占有率は、今よりも高い水準にまで到達していた形跡があります。(この事は重要です。)

逆に、13年～15年では、やや市場分荷・分散が進み、39協力市場様の市場占有率が減少しておりました。西日本の個選の方々を中心とした動き。農産物直売場、緑化植栽市場への拡大も含む。(市場外流通本数を3百万～5百万本と見込んでいます。)

2013年を一つの起点とします。		約	62,000,000	本	平均単価	201.0	円
2014年		△	4,000,000	本	〃	206.4	円
2015年		△	2,000,000	本	〃	211.0	円
2016年	(3市場下半期分末計上の中での推定値)	△	2,500,000	本	〃	216～217	円

3年間で約8,500,000本の減少。平均単価は、3年連続約5円ずつ上昇している様です。

2008年のリーマンショック、2011年の東北大地震、2014年の消費税率見直しなど、様々なネガティブな状態が続いていた切花園芸業界においては、08年～13年のO.H/O.T系平均価格は、最低値196.8円～最高値215.9円と、低迷状態が続いておりました。(02年～07年の期間では212.2円～225.6円の間で推移。)

2016年は、年間平均価格216～217円とは、2010年の水準です。(近年では最もよかった年でした。)

特に後半3か月10～12月期の平均価格は、235～240円の間となる様子。

これは、2007年の同時期以来の水準、いわゆるリーマンショック前の水準まで到達した事となります。

過去3年間の平均価格の上昇に気が付いていた人は多くありません。

製造原価が維持できず、退場していった生産物が減った分だけ、平均単価が上昇した為だと思います。

緩やかに市場分荷・分散が進んでいたことも見逃せません。

今後、物流悪化に伴い、再び逆の動きとなるのか？

*勘違いしないで読んでほしいポイントになります。

「大手切花生産農家は、ゆるやかに分散・分荷を進めた方が良いと思います。」

大手とは、生産量1,000,000本以上の事を言います。

16年の流通本数減少は、前半6か月(1～6月)では、△300,000本。後半6か月(7～12月)で、2,200,000本(推定)となっており、年率では4%強の減少率ですが、後半6か月の減少率は7%を超えている様です。

後半6か月の39協力市場様の取り扱い本数減少は、彼らの市場シェア率が減少したからではないように見えます。

①輸入百合切花の入荷量減少。

②オランダ産/フランス産 O.H/O.T系球根輸入量の減少。(植防値及び輸出入業社様からの聞き取り。南半球産は減少していません。)

③夏場切花産地を中心とした出荷調整。出荷減。

以上、3つの事から起きる日本全体の流通本数の減少は、計算上約3,500,000本。

この減少が発生する事は、ある程度予測されていました。

*日本における秋以降の気象要因が与えた出荷の乱れの影響は、なかったとは言えませんが、むしろ要因は別のところにあった様です。

実は、ここから以降、もう一つの変動要因が市場価格に大きな影響を与えたことが今回の調査で分かりました。

極めて重要度の高い事象なのですが、この部分は、各市場様の内情にも触れることとなります。加えて、各切花産地の販売戦略にも関わってきます。したがって、文章化出来かねます。

希望された市場担当者の皆様へ分析結果をお伝えいたします。(私の私見となりますが…。)

個々の市場だけでは判断が付きにくい事象となっております。(相互比較とその原因の分析をしないと見えてこない。)

これらの報告は、各市場担当者の方々からお聴き取りください。

一点だけお伝えします！

生産規模の大きな生産者が果たす役割、共選産地が果たす役割、中小規模の生産者の皆様に考えていただきたいことが、それぞれの産地が担当する出荷する時期ごとに、それぞれの皆様の経営ビジョンごと、に明確になりつつあるように見えてきました。

打つ手は、増えてきたように見えます。

*ある市場の方に、Line にて報告をしたところ、帰ってきた返答の中に良い言葉が入っていました。

「団結と勇気」だそうです。

慎重に反省・検証して、前に進んでいく勇気を持ちましょう。

追記：O.H/O.T系を調査するにあたり、反面重要なのがA.H/L.Aの動きです。

39 協力市場様の取り扱いが横ばいとなっている様です。16年産南半球産球根輸入量減少を勘案すれば、15年産オランダ産使用期間の延長は当然な動き。(2017年4月頃まで。球根流動在庫も結構ありましたからね…。)

こちらの動きからもO.H/O.T系の動きが再確認することができました。

ご不明な点等ございましたら、お問い合わせください。

以上
森山 隆